



東京2020パラリンピック競技大会 男子マラソンT46 銅メダリスト

なが た つとむ
永田 務 氏



スペシャルアンバサダーに

就任



3月29日、東京2020パラリンピック競技大会男子マラソンT46銅メダリストの永田氏が来庁し、昨年11月3日に受賞した市民栄誉賞の記念品となる「村上木彫堆朱の盾」が完成し、本人に直接贈呈されました。また同日、本市2人目となる「村上市スペシャルアンバサダー」の任命式が行われ、市長から委嘱状の交付と任務に使用する名刺と名札が授与されました。

任命を受けた永田氏は「このお話をいただいたときに、こんなおじさんがなつて村上市のイメージが大丈夫かなと心配でしたが、生まれ育った村上市をアピールできるのはこれしかない」と走りを感じてきたこの良さを自分なりに全国、そして世界へ発信し、務めていきたいと思います」と語りました。

市長は「オリンピック後も彼のモチベーションはさらに高まっています。色々なジャンルで成績を伸ばして欲しい」と話しました。

今後2年間を競技に集中できる環境で世界を目指し、後に続く者のへの責任を持ちながら前進していきます。

4月からは県パラでは初となる企業スポンサーのレンタル所属選手となり、「モチベーションも体力も」落ちていくイメージが無い」と力強く語ってくれた永田氏。

永田氏は、男子マラソンT46種目の存続を世界にアピールするため、まずは6月のパラ陸上日本選手権大会で1500mに挑戦。10月に開催されるアジアパラ競技大会・陸上競技の代表権獲得を目指し、更には1年後の世界大会への出場を視野に入れた取り組みを開始しています。

いし、彼のポテンシャルから、それは実現できるだろうと思っている。さまざまな場面での発言で村上を思う気持ちが随所に見えているし、彼の存在そのものがスペシャルアンバサダー。これから期待をしながら応援していきたい」と話しました。



3/21 破損していたウッドデッキが見違えるように 親子で学校の環境整備（さんぼく小学校）

学校生活の環境整備に少しでも協力したいとの思いで活動する任意団体の「FMさんぼく」が声掛けをし、さんぼく小学校のウッドデッキ修繕が行われました。

経年劣化で破損した部分の板を張り替え、全体に塗装をしてきれいに修復されたウッドデッキ。集まった親子で楽しそうに作業している姿が印象的でした。



▲劣化した板の張り替え作業

3/21 あらかわチャレンジが審査員特別賞を受賞! 第2回 新潟SDGsアワード（メディアシップ）



▲地域に根付きつつある活動として高評価

荒川中学校・荒川商工会・あらかわ地区まちづくり協議会のSDGsに関する取り組み「あらかわチャレンジ」が審査員特別賞を受賞しました。

審査員からは「第1回で大賞を受賞しているが、内容をさらに発展させている。昨年と同様、高く評価しました」と講評をいただきました。

多様な世代が連携することで、誰もが生き生きと安心して暮らせる地域づくりの先進的な取り組みとして、今後、ますますの発展が期待されます。

3/26 弥生時代の遺跡を活用した地域おこし 国指定史跡山元遺跡保存会設立総会（上助測コミュニティセンター）

神納東地区の集落区長をはじめとする住民有志が集まり、国指定史跡山元遺跡保存会の設立総会が開催されました。

山元遺跡は国内最北の高地性環濠集落で、弥生時代中期から後期のものと思われる大変貴重な遺跡です。この貴重な資源を活用し地域を盛り上げたいと保存会を立ち上げ、今後は市内外に向けた広報や地域おこしに結び付ける積極的な活動を行う予定です。



▲今後の活動に向けた議事が行われました

4/3 伝統芸能と桃の節句 大須戸能定期公演（大須戸集落八坂神社能舞台）



▲能「弓八幡」。武力は天下を平和に治める為のもので、争う為のものではない事を主張した曲

旧暦の桃の節句、まだ雪が残る大須戸集落で、大須戸能の定期能が行われました。起源は江戸後期、またはそれより遡るとされ、毎年4月3日に行われる定期能では、能三番と狂言が演能されてきました。

コロナ禍で集落住民限定の開催でしたが、今年も静まり返る境内に響き渡る笛太鼓や地謡、きらびやかな能装束が幽玄な世界を演出してくれました。

父の演能を見に来た家族連れは「やっぱりすごい」と感心しきり。伝統文化に触れ、郷土の誇りを感じられた一日となりました。